

農林水産業高度化推進プロジェクトの推進と令和6年度の取組

目指す姿

飛躍的な生産性の向上や、農林水産物の新たな価値の創出等の取組を通じて、農林水産業の高度化を推進し、収益性の高い農林水産業を実現

現状と課題

① 先端技術の活用等による農業生産性革命の推進

【現状】

- ・環境制御技術（ミスト加湿）による雨よけほうれんそうの増収技術の開発
→ 慣行栽培比最大14%収量増（令和5年度試験データ）
- ・県北地域向けの良食味米や新たな花色のりんどうなどの新品種の開発
- ・生産現場の栽培・生育等のデジタルデータの蓄積

【課題】

- ・環境制御技術の品目拡大、普及実証
- ・気候変動・新たなニーズに対応した新品種の早期開発
- ・蓄積データを活用した更なる生産性向上



▲雨よけほうれんそうの栽培実証
(左上：ミスト加湿（噴霧）の様子)



▲県北地域向け水稻新品種の開発

② 豊富で多様な森林資源を活用した林業の成長産業化の推進

【現状】

- ・森林GIS、ドローンなどを活用したスマート林業による森林管理技術等の開発・実証
- ・木質バイオマスを活用した地域への熱電供給（紫波町等）

【課題】

- ・スマート林業の普及による業務の効率化・生産性の向上
- ・地域内エコシステムの導入機運の醸成・普及



▲再造林の効率化に向けた実証
(ドローンによる苗木運搬)

③ 生産技術の高度化や水産資源の造成等による攻めの地域漁業の推進

【現状】

- ・他産地と差別化するいわてオリジナルのサクラマス種苗の開発
- ・水揚量が増加しているサワラ等の水産物の販路・物流モデルの実証
(例：県内の小売・飲食店等のニーズに合わせたサワラ商品の開発)

【課題】

- ・いわてオリジナルのサクラマス種苗の海面養殖への活用促進
- ・新たな販路・物流モデルの構築



▲いわてオリジナルのサクラマス種苗

④ 個性が輝く地域資源を活用した農山漁村の活性化

【現状】

- ・漁村ならではの地域資源の価値や魅力を活かした「海業」の取組の開始
(大槌町吉里吉里漁港、山田町織笠漁港)

【課題】

- ・海業の取組の他地域への波及（理解醸成、普及促進）

今後の展開

① 農業生産性革命の推進

○環境制御技術の導入推進

- ・低コスト環境制御技術の導入支援
- 新品種の開発
- ・気候変動に対応する水稻等の新品種開発
- データ駆動型農業の実装
- ・データ駆動型農業の現場での実証

② 林業の成長産業化の推進

○ICT等の導入促進

- ・ICTを活用した森林管理・施業を普及できる人材の育成
- 地域内エコシステムの導入促進
- ・地域協議会等の活動を通じた導入支援

③ 攻めの地域漁業の推進

○高度なつくり育てる漁業の推進

- ・漁場等の効率的な活用に関する技術の開発・普及
- ・海洋環境の変化に対応した生産技術の開発・普及
- 水産加工業の振興
- ・水揚量が増加している資源の有効利用

④ 農山漁村の活性化

○海業の促進

- ・漁港等を活用した海業の取組機運の醸成、取組支援

令和6年度の具体的な取組

① 農業生産性革命の推進

- ① 地球温暖化適応品種開発プロジェクト事業費（19百万円）
 - ・DNAマーカーを活用した地球温暖化等に適応する新品種の開発
 - ・低コストで導入可能な果樹の凍霜害対策の実証
- ② 日本一の美味しいお米の国づくり推進事業費（48百万円）
 - ・県北地域向け水稻新品種の普及定着のための取組の実施
- ③ データ駆動型農業推進事業費【政プロ費】（12百万円）
 - ・多様なデータに基づく栽培技術・経営の最適化に向けた実証研究
 - ・園芸品目におけるAI技術を活用した省力型栽培体系の開発・実証

② 林業の成長産業化の推進

- スマート林業推進事業費（2百万円）
 - ・ICT（森林GIS、ドローン操作等）に関する研修会及びセミナーの開催

③ 攻めの地域漁業の推進

- ① さけ、ます海面養殖イノベーション推進事業費【政プロ費】（4百万円）
 - ・サケ、マス類の海面養殖用種苗の効率的な生産技術、海面養殖用種卵の量産技術の実証
 - ・サケ、マス類の海面養殖用魚種の高水温耐性の調査
- ② 新たな水産資源利活用モデル開発事業費（10百万円）
 - ・水揚量が増加している魚種等の新たな販路・物流モデル、需要喚起モデルの構築

④ 農山漁村の活性化

- ① 海業推進モデル事業費（5百万円）
 - ・海業の理解醸成等に向けたシンポジウムの開催やビジネスモデルの構築支援

1（農業）先端技術を活用し、生産性・収益性の向上に向けた取組を推進

- 環境制御技術（ミスト加湿）による雨よけほうれんそうの増収技術を開発中
（R5猛暑下で慣行栽培比最大14%の収量増を確認）
- DNAマーカー選抜技術を活用し、県北地域向けの多収・良食味の水稲品種を開発（R6に奨励品種への採用を検討中）
- 生物工学研究センター等の支援により、県内企業2社が、鶏肉と鶏肉加工品において、機能性表示食品を開発
（R6以降の販売を予定）



▲ 雨よけほうれんそうの栽培実証（左上：ミスト加湿（噴霧）の様子）



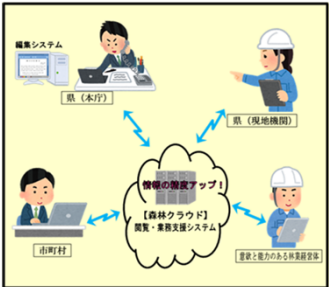
▲ 県北地域向け水稲新品種の開発



◀ 機能性表示食品の開発（商品パッケージのイメージ）

2（林業）ICT等先端技術を活用し、成長産業化に向けた取組を推進

- 「森林クラウドシステム」の整備により、森林データの一元管理が実現
（R5年4月から運用開始 県内全市町村導入済）
- 高性能林業機械の導入により、林業生産の効率化が加速
（保有台数 H28:273台 → R3:432台 ⇒ 約1.6倍）



▲ 森林クラウドのイメージ



▲ 高性能林業機械（ハーベスタ）

3（水産業）生産技術の高度化等により、海洋環境の変化への対応を推進

- 海面養殖用ギンザケの県産種卵の供給体制構築により、県内養殖事業者へ種卵供給を開始（R5から8事業者へ供給開始）

＜県産種卵の供給体制＞



▲ 海面養殖用のギンザケ種卵



▲ ウニの蓄養

- 漁港内の静穏域等を活用し、ウニの蓄養・出荷を実現（R2:4漁協 → R5:12漁協 ⇒ 3倍）